

新連載①

医者も知らない 平穩死



〈長尾和宏〉長尾クリニ
ック院長・日本尊厳死協
会副理事長。著書に『平
穩死』10の条件』など。

私は、兵庫県尼崎市の町
医者です。開業して17年。
1日約200人の外来患者
さんと約3000人の在宅患
者さんに年中無休で向き合
う毎日です。

患者さんは高齢の方が
多いのですが、皆さん、お
っしゃるのが「死ぬんやっ
たら家がええ」。Kさん
(95)もそのひとりで、ご
自宅に訪問診療するたびに
「家族に見守られて、自然
に逝きたい」とおっしゃっ
ていました。

ところがある時、転倒し
て足を骨折。ご家族は慌て
て119番。搬送先の病院

「死ぬんやったら家がええ」



で、医者に言われるまま
に、「入院」となったので
す。私が知ったのは、2週
間後でした。

お見舞いに行くと、そこ
には、私がよく知っている
Kさんはいませんでした。
あんなに陽気だったのに、
わずか2週間の入院生活で

認知症を発症し、少しの笑
顔も見せなくなっていたの
です。半年後、Kさんは一
度も家に帰ることなく、天
国に旅立られました。

(写真はイメージ)

息子さんは泣き
ながらこうおっし
やいました。
「おふくろはボケ
て、俺が息子って
ことも分からんよ
うになっていたの

に、何度もへ家に帰りたい
いって……。担当医に相
談したんですが、認知症で
口から食べられへんように
なっていたんで、へ連れて

帰ったら、お母さんの寿命
が縮まりますよ、と脅す
ように言われ、連れて帰ら
れへんかった」

もしあの時、おふくろの
希望をもう少しよく聞いて
やっていたら、希望通り、
好きな自宅で家族に見守ら
れながら終わりを迎えられ
たかもしれない。そう、息
子さんは後悔されていたの
です。

望んでいた死に方ができ
ない。させられない。「平
穩死」とはまったく違う人
生の終わり方だったと、後
悔される方が多いようです。
その理由は何なのか？
平穩死を迎えるには、何
を知っておくべきか？
これから具体的に紹介し
ていきたいと思います。